

# APPENDIX-3 ラグビー憲章 (1997)

## 序文

IRBはラグビーの基本原則を定めるラグビー憲章(Playing Charter)をここに制定する。この憲章は、すべての協会に原案に対しコメントをする機会を与えた後に承認したものである。その目的は、ラグビーの競技方法に対して、ある一定のチェックリストを設けることにある。これは同時にラグビーがもつ独自の特性を失わせないためのものでもある。プレーとコーチングに適用するラグビーの原則に付け加え、2つの新しいチェックリストを追加した。競技規則の適用(レフリング)、と競技規則制定に関してである。ラグビー憲章の存在はラグビーに大きな恵みをもたらすものとなるであろう。ラグビー憲章に照らし合わせるにより、あらゆる基準が明確になる。そして、このことが根拠の曖昧な変更を防ぐことにつながり、いかなる変更も、ラグビー独自の特性との一貫性を持つことになるからである。したがって、ラグビー憲章は、ラグビーとは何かを説明する競技規則を補う重要な性格を担うものであり、プレイヤー、コーチ、レフリー、そして競技規則を制定するものに、一定の規範を示すものとなる。

## 1. ラグビーの目的 The Object of The Game

ラグビーの目的は、それぞれ15名、10名、または7名からなる2つのチームが、競技規則およびスポーツ精神に則り、フェアプレーに終始し、ボールを持って走り、パス、キックおよびグラウンディングして、できるかぎり得点を多くあげることであり、より多くの得点をしたチームがその試合の勝者となる。

解説 ラグビーの目的を達成するためには、2つの基本原則がある。1つはボールの争奪(contesting possession)であり、もう1つはプレーの継続(maintaining continuity of play)である。

これらはボールを用いるチームスポーツが共通して持つ特質であり、ボールを保持しているチーム(攻撃している側)の目的は得点をあげることを目指し、ボールを保持していないチーム(防御している側)は、ボールを再獲得して攻撃し得点をあげることを目指す。しかしラグビーは他のスポーツとその競技方法において以下の点で異なる。

- 手も足も両方使うことができる。
- プレイヤーはボールを持って自由に走ることができる。
- 防御方法にも、安全性を損なわない限り、制約がない。
- ゴールラインを越えてボールを持ち込むことによって得点となる。
- ボールは後方に位置する味方のプレイヤーにのみパスをすることができる。
- 攻撃している側のプレイヤーは、味方チームのボールキャリアーより後方の位置からのみプレーに参加できる。
- 攻撃できるスペースの創出は、ボール獲得・保持・再獲得といったチームのスキルによって左右される。

ラグビーには上記のような特性があり、これらによってラグビーは独自の特性を持つスポーツとなっている。2つの基本原則のうちの1つで、ラグビー独自の特性であるボールの争奪とは、キックによる開始と再開、スクラム、ラインアウト、ラック、モール、そしてタックルで行なわれる。もう1つのプレーの継続とは、ボールをパスしたり、持って走ったり、キックしたりすることや、ラックおよびモールを形成することによってである。

## 2. ラグビーの原則 The Principles of The Game

解説 ラグビーの原則はラグビーの根幹をなす理念である。ラグビー競技に参加するものは、この原則により、ラグビーが他のスポーツとは一線を画す特性を持つということ直ちに認識できることになる。ラグビーの試合は次の原則に基づくものである。

### ボールの争奪 Contests for Possession

ボールの争奪はラグビーの持つ主要原則である。この争奪は試合中のあらゆる局面で行なわれる。争奪は、コンタクトプレーや一般プレー、そしてスクラム、ラインアウト、キックによる開始、再開の場面で発生する。これらの争奪は、どちらのチームにも公平なものでなければならぬが、その直前のプレーで、スキルのクオリティが優っていた側に有利となる。例えば、プレーを継続するスキルが未熟なためにボールをタッチに出したチームには、ラインアウトでの投入権は与えられず、また、ボールを前方に落としたり、パスをしつたりすれば、次のスクラムにおいてブットインができないということである。

### 攻撃/プレーの継続 Attack/Continuity of Play

ボールを獲得したチームは、フィールドオブプレー内の横のスペース、および自チームと相手チームとの間の縦のスペース両方を活用して、ボールをパスしたり、前に持って走ったり、キックしたりして攻撃を行なう。攻撃している側(ボール保持チーム)の目的は、相手チームのボール獲得を阻止し、ボールを前方へ動かすスキルを駆使することにより、プレーを継続し得点をあげることである。プレーの継続には、前進が一時的に停止したときに行なわれる再編成(ラック・モール)が含まれる。これにより、ボール保持チームは横のスペースと相手チームとの間の縦のスペースを再び作り出し、攻撃の継続が可能になる。

### 防御/ボールの再獲得 Defence/Regaining Possession

いったんボールを失えば、ボールを保持していない側はまず、攻撃している相手側にボールを用いるスペースと時間を与えないようにして、相手側が前進するのを防ごうとする。最終的な目的は、ボールを再獲得し、攻撃をして得点をあげることである。防御の役割とは、ボールを再獲得して、攻撃することによってプレーを継続することである。

### 多様性 A Multi-Faceted Game

上記3つの原則の総合的な結果として、さまざまな局面が試合の中で創出される。プレイヤーは、広範囲にわたる個人スキルや集団スキルを発揮し、色々な人数のグループを形成して、総合的にプレーができる。このようにスキルが多様性に富むため、様々な能力・身体的特性をもつプレイヤーが1つのチームの中で一緒にプレーすることが可能となる。プレイヤーは共通のスキルを持つ一方、ラグビーが多面性を持つという性質上、個々のプレイヤーの能力差に関わりなく、各自の才能に最も適したポジショナルスキルを専門的に習得することもできる。

### 報償と罰 Rewards and Punishments

ラグビーの競技方法では、その目的と原則を有効に活用することができるチームが相手側より有利になる。スキルを駆使するための時間とスペースが多い側が有利に試合を展開することからも理解できよう。プレーの開始時点で、ボールを獲得した攻撃している側には、ラグビーの目的を達成できるように十分なスペースが当然与えられる。

### 3. 競技規則適用(レフリング)の原則

#### The Principles of Law Application (Refereeing)

##### ラグビーの目的と原則 The Object and Principles of Rugby

ラグビーの目的を達成するために、そしてここに記されているようなラグビーの原則のもとでラグビーがプレーされることを保証するために競技規則は適用されなければならない。

##### 公正さ Fairness

ラグビーの目的に応じたスキルフルでポジティブなプレーに対しては報償を、目的に反するプレーに対しては罰をという考えに基づいて、競技規則は適用されなければならない。

##### 一貫性 Consistency

競技規則の適用には一貫性がなければならない。

##### アドバンテージ Advantage

プレーを継続するためにアドバンテージが適用されなければならない。しかし、継続する中で攻撃のオプションが大幅に制限されたり、反則が重なれば、違反したプレーに該当するルールを適用する。アドバンテージルールの適用に当たっては、プレーの質の低下や、プレーヤーの安全性が失われることにつながるものがあってはならない。

##### 優先順位 Priorities

プレーヤーの安全性確保に第一の優先順位を置く。次に、プレーの継続に優先順位を置く。このためにはアドバンテージルールの適用が必要となる。

##### マッチオフィシャルのゲームマネジメント Management of the Game by Match officials

これについてはトップレベルでのみの適用となる。マッチオフィシャルが1つのチームとして機能するように、レフリーはルールを適用しなければならない。

##### 適用 Application

ここに述べた競技規則適用の原則は必ず守らなければならない。そうすることによってはじめて、ラグビーの目的に沿ったプレーが行なわれる。

### 4. 競技規則制定の原則

#### The Principles of Rugby Law Making

競技規則制定の原則は、競技規則を制定するものに、ラグビーの原則を正しく表す競技規則を作成するための枠組みを提供するためにあり、次の原則に基づいて制定される。

##### 安全性 Safety

競技規則にしたがってプレーしているすべてのプレーヤーに対して、競技規則自体が保護を与えるものでなければならない。

##### 平等な参加機会 Equal Opportunity to Participate

競技規則は、体格、スキル、性別、年齢、競技にかける意欲など、それぞれによって異なるプレーヤーがその能力のレベルに応じて、安全で、競い合い、かつ楽しめる環境の中でプレーできるようにするものでなければならない。

##### 独自性の維持 Retention of Identities

ラグビーは独自の特性を数多く持ち、これらの独自性は失われてはならない。

##### ○ ボールの争奪 Contests for Possession

プレーの開始時と再開時において

キックによる開始と再開/ラインアウト/スクラム

##### ○ ラック、モールを含む一般プレーの中での攻撃 Attack

相手チームのゴールラインに向かってボールを動かすスキルには、ランニング、パス、キックなどがある。このうち最も特徴的な独自性は、パスを前に投げることができないことである。これは他のスポーツにはほとんど見られない特徴である。したがって、ボールを前進させることができる他の方法としては、ボールを持って走ったり、キックを行なうことに限られる。

##### ○ ラック、モールを含む一般プレーの中での防御 Defence

タックルをしてボールを再獲得するスキルは、ラグビーにおける防御に関する主要な独自性である。競技規則は、スキルの劣っている側の攻撃に対して、その時間とスペースを奪い、プレッシャーを与えるという防御のプレーを可能にするものでなければならない。

##### プレーの継続 Continuity of Play

プレーの継続に関連した独自性としては、ラックとモールがある。これらの独自性とは、攻撃している側(ボール保持チーム)が、得点をするまでには至らなくとも、ボール保持を継続し、もう一度攻撃を再構成しなおすことを可能にする方法のことであり、ラック・モールを形成することで、攻撃している側は、横のスペースと相手チームとの間の縦のスペースを再び生み出すことができる。また、そうすることによって、攻撃を継続するために必要な時間を得ることもできる。

##### プレーする喜びと観る楽しさ Enjoyment and Entertainment

競技規則は、プレーヤーが安全に楽しめ、プレーする喜びを味わえるような、そして観客も観て楽しめるような試合を作り出すための枠組みを示すものでなければならない。いつも同じ楽しさが味わえるとは限らないが、プレーヤーがスキルを駆使して質の高いボールを獲得し、そのボールを活用してプレーの継続を目指すことを可能にすることで、プレーする側および観る側双方の楽しさが増すことになる。

##### スペースの確保/報償、失敗と罰則

###### Provision of Space / Rewards, Errors and Punishments

競技規則は、相手チームよりスキルフルにラグビーのスキルを駆使することができたチームに報償を与えるものでなければならない。この報償とは、最初のボールの争奪において、よりスキルフルなチームにボールとプレーの継続を維持するための時間とスペースを与えるということである。プレーを継続する中で、最も重要な点は、プレーヤーは立ったままスキルを発揮しなければならないということである。グラウンドに倒れているプレーヤーはプレーできない。

スキルに対して報償を与えるものである競技規則に違反したチームには罰則が課せられる。罰則のレベルは相手にどの程度の不利益を与えたかの度合いによる。これは基本的には、違反した側が違反をしていない側のプレーのオプションをどの程度減少させたかによる。

相手側の効果的なボールの活用を妨げることを意図して行なわれる不正なプレーや、極端な場合、相手側のプレーの継続を妨げるような不正なプレーには、最も厳しい罰則が課されなければならない。

##### 罰則の段階

○アドバンテージルールの適用反則をしていない側のオプションが減らないのであればアドバンテージルールを適用する。

○スクラム…ラインアウトスキルが劣るために反則をした側やタッチにボールを出した側は、試合を再開するための権利を持つことはできない。

○フリーキック…ラインアウトやスクラムでの軽微な反則など、相手のオプションを制限するものではあるが直接的な影響がない場合をフリーキックとする。

○ペナルティーキック…倒れ込みやオフサイドなど、ボールの争奪やプレーを継続させる場面で、相手のオプションを制限することを意図としたプレーに対しては、ペナルティーキックとする。

○ペナルティートライ…まさにトライを取られそうな場合に、トライを妨害することを目的とした行為に対してはペナルティートライを与える。

○退場処分: 重大な不正なプレー、またはその後の不正なプレー、同じ反則を繰り返して行なう場合などに適用する。

##### 一貫/遵守/簡潔 Consistency / Compliance / Conciseness

競技規則は、一般的な根本原理を示し、また相互に首尾一貫した関連性を持つことが望まれる。一方、トップレベルのプレーヤーのプレーの質を向上させるために考案されたものであっても、すべてのレベルで適用できるような実用的なものであることが望ましい。競技規則は、ラグビーの自然な流れに即したもので、プレーヤーが無理なく従うことができるようなものであるべきである。競技規則は、表現および体裁などの点で容易に翻訳し理解できるような形で編纂されていることが望ましい。

##### ルールブックの普遍性 Universality of the Law Book

ラグビーの試合は統括団体であるIRBによって承認された1つのルールのもとでプレーされなければならない。

年代別ラグビー(Age Grade Rugby)は、より高い安全性が求められ、それに対応するために競技規則のいくつかの点に修正を加えた統一した特別規則により行なわれなければならない。

# ラグビー憲章 (2003)

## はじめに

単なる娯楽としてスタートしたラグビーというスポーツは、世界的なネットワークを誇るゲームへと変容を遂げ、巨大なスタジアムが建設され、複雑な運営組織が作り出され、複合的な戦略が構築されてきた。万人の強い興味と関心を引く活動がどれもそうであるように、ラグビーフットボールには多くの特徴があり、いろいろな側面がある。

ゲームをプレーすることと、それに伴うサポート活動とは別に、ラグビーには勇気、忠誠心、スポーツマンシップ、規律、そしてチームワークといった多くの社会的・情緒的概念が包含されている。この憲章は、競技方法と行動の評価を可能にするチェックリストを示すためにある。そしてその目的は、ラグビーがそのユニークな特徴をフィールドの内と外の両方で維持することを確実なものにすることにある。この憲章は、ラグビーというスポーツをプレーし、コーチし、競技規則を作り、適用する際の基本原則を網羅している。この憲章は、競技規則とともに、欠かすことの出来ない重要なものであり、すべてのレベルでプレーする人たちのための基準を示すものである。

## ゲームの原則

### 行動

フットボールの試合中にボールを最初に拾い上げ走ったと信じられている、かのウィリアム・ウェップ・エリスの伝説は、ラグビー校でそれが起きたと言われる1823年のその日以来、これを否定しようとする数え切れない人々の反論に対抗して強固に生き延びてきた。ラグビーという競技が、スピリットあふれるひとつの挑戦行動にその起源をもっていたに違いないと考えることは、ある意味適切である。普通の観察者が見れば、一見矛盾の固まりのように思われるラグビーゲームの裏に、ゲームを支配する原則を即座に見いだすことは難しい。例えば、ボールを獲得しようとして相手に強烈な身体的圧力をかけていると見られることにはまったく問題はないが、それは故意に、あるいは悪意を持って怪我を引き起こそうとする行為とは全く別なものである。

これらはプレーヤーとレフリーが追求していかなければならない境界線であり、自制と規律を融合させ、個人及び集団でそれを明確に線引きする能力が求められ、行動の規範はその能力に依存しているのである。

### 精神

ラグビーの魅力の多くは、ラグビーが競技規則に記された文言に従うとともに、競技規則の精神の中でプレーされているという事実にある。これが確実に起きるようにする責任は一個人に帰するものではなく、コーチ、キャプテン、プレーヤーそしてレフリーを含むものである。

ゲームの精神は、規律、自制、相互の信頼を通してこそ繁栄するのであり、ラグビーのような身体的に激しいゲームの中においては、これらの資質がゲームの将来における成功と生き残りにきわめて不可欠な友情とフェアプレーの感覚を築くのである。

それらは時代遅れの伝統と美徳かもしれないが、時の試練に耐えてきたものであり、ゲームがプレーされるすべてのレベルにおいて、それらがその長く際だった過去を通じて重要だったように、ラグビーの将来に対しても依然として重要なものとして残っている。ラグビーの原則とは、ゲームが基礎をおく基本的な要素であり、ゲームに参加する者は、ゲームの原則によって、どこにゲームの特徴があるのか、そして何がラグビーを一つのスポーツとして際立たせているのかを、直ちに認識することが可能になる。

### 目的

ゲームの目的は、それぞれ15名からなる2つのチームが、フェアプレーに則り、競技規則に従い、スポーツ精神に基づき、ボールを持って走り、パス、キックおよびグラウンディングして、できるかぎり得点を多くあげることである。ラグビーは世界中で成人男性、成人女性、少年、少女によってプレーされており、6歳から60歳に至る300万人以上の人々が定期的にラグビーのプレーに参加している。ゲームに求められるスキルと身体的条件に多様性があるため、あらゆる体型、サイズそして能力を持つプレーヤーがプレーに参加する機会を、すべてのレベルにおいて得ることになる。

### ボールの争奪と継続

ボール獲得のための争奪は、ラグビーの鍵となる特徴の一つである。この争奪はゲームを通して、いろいろな形で発生する。

- ・コンタクト時に
- ・一般のプレーで
- ・スクラム、ラインアウト、そしてキックオフでプレーが再開されるときに

ボールの争奪はその前のプレーにおいて示された優れたスキルに報いるようにすることでバランスが保たれる。例えば、プレーを継続する能力がないためにタッチにボールを蹴り出すことを強いられたチームは、ラインアウトでの投入を認められない。同様に、ボールを前に落としたり、前に投げたりしたチームは、その後のスクラムでのボール投入が許されない。ボール投入の際、ボールを投入するチームに常に優位性があるには違いない。しかしここでも再び、これらのプレーの中で公平なボール争奪が可能であることが重要である。

ボールを保持しているチームの目的は、相手のボール獲得を否定し、継続を維持し、スキルに富んだプレーで前進し、得点を上げることである。これに失敗するという事は、ボールを支配しているチームの側の能力不足の結果として、あるいは相手防御の優秀さのために、相手にボールを譲り渡すことを意味する。つまり、ボール争奪と継続、利益と損失ということである。

一つのチームがボール保持の継続を維持することを試み、一方相手チームはボールの争奪に励む。このことがプレーの継続とボール保持の継続との必須のバランスを提供する。争奪の可能性と継続というこのバランスは、セットピースと一般プレーの両方に当てはまる。

## 競技規則の原則

競技規則は以下の原則を拠り所としている。

### すべての人にとってのスポーツ

競技規則は、異なった体格、スキル、性、そして年齢のプレーヤーに、それぞれの能力のレベルにおいて、コントロールされた競争的で楽しい環境において参加できる機会を提供する。競技規則に関する完全な知識と理解を有することは、ラグビーをプレーするすべてのプレーヤーにとっての義務である。

### 独自性の維持

競技規則は、スクラム、ラインアウト、モール、ラック、そしてリスタートを通じて、ラグビーの持つ他にはない特徴が維持されることを保証する。また、ボール争奪と継続に関連する鍵となる特徴、すなわち後方へのパス、攻撃的なタックルも同様である。

## 喜びと楽しみ

競技規則はプレーをする上で楽しく、見る上でおもしろいゲームのための枠組みを提供する。時として、この二つの目的が両立しがたいように思われる場合があるが、そのような場合には、プレーヤーにプレーヤーの持つスキルを自由に発揮できるようにさせることで、喜びと楽しみが大きくなる。この適切なバランスを達成するために、競技規則は常に見直されている。

### 適用

プレーヤーには競技規則を遵守し、フェアプレーの原則を尊重するという最優先の責務がある。競技規則は、ゲームがラグビーの原則に従ってプレーされるのを保証するように適用されなくてはならない。レフリーとタッチジャッジはこれを、公平さと一貫性と繊細さと、そして最高のレベルにおいては、管理を通して達成できる。その返礼として、マッチオフィシャルの権威を尊重することはコーチ、キャプテン、そしてプレーヤーの責任である。

## おわりに

ラグビーは、成人の男性にとっても女性にとっても、少年にとっても少女にとっても価値のあるスポーツである。ラグビーは仲間の競技者との間のチームワーク、理解、協力、そして尊敬を作り上げる。その基になるのは、それらがいっつもそうであったように、参加する喜び、ゲームが要求する勇気とスキル、関与するすべての人々の人生を豊かにするチームスポーツへの愛、そしてゲームにおいて共有される興味を通して築かれる生涯の友情である。

そのような偉大な友情が試合の前にも後にも存在するのは、ラグビーの持つ激しい身体的・競争的特徴があるからである。競い合うチームのプレーヤーがお互いに楽しむという永きに渡って存在する伝統は、ゲームの中核となる部分として今日も存続している。

ラグビーはプロフェッショナルの時代の到来を完全に受け入れるようになったが、リクリエーションなゲームとしての特質と伝統は残っている。伝統的なスポーツの特質の多くが弱められ、あるいは疑われる時代にあって、高い水準のスポーツマンシップ、倫理的な行動、そしてフェアプレーを維持する能力をラグビーが有することを、ラグビーは真に誇りに思う。この憲章は、これら大切に守られてきた価値を強めるための一助になることを期すものである。